

## 平成 25 年度 第 1 回淡路島定住自立圏共生ビジョン懇談会

### 会議概要

【 日 時 】平成 25 年 7 月 24 日（水） 14 時～15 時 30 分

【 場 所 】洲本市役所北庁舎第 1 会議室

【 出席者 】委員 10 名、事務局 4 名、連携市（淡路市） 2 名

#### 【 次 第 】

1. 開会
2. 市長挨拶
3. 委員紹介
4. 委員委嘱
5. 会長、副会長選任
6. 会長挨拶
7. 報告事項  
    報告第 1 - 1 号    これまでの取り組みについて
8. 協議事項  
    議案第 1 - 1 号    淡路島定住自立圏共生ビジョン（第 1 次案）について
9. その他
10. 次回開催予定
11. 副会長挨拶
12. 閉会

---

#### 【 内 容 】

1. 開会
2. 市長挨拶
  - ・本日は、大変お忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。
  - ・洲本市では、昨年度から淡路市と連携しながら、現在、総務省が全国的に推進している「定住自立圏構想」に取り組んでまいりました。

全国に248ある中心市宣言が可能な市のうち、3分の1を超える84団体が宣言を行っております。そのうち、79団体が形成協定を締結、75団体が共生ビジョンを策定しています。

本市も、昨年10月に「中心市宣言」を、今年3月には、洲本市と淡路市の両市の議会で議決をいただき、「形成協定」を締結したところです。

- ・定住自立圏構想は、3つの手続きから成り立っていますが、すでに「中心市宣言」と「形成協定の締結」の2つを終了しており、いよいよ最後の「共生ビジョンの策定」を残すのみとなっています。
- ・今回、各分野のエキスパートであり、豊富な知識とご経験をお持ちのみなさまにお集まりいただき、専門的な観点からご意見・ご提案をいただくことで、ぜひとも「共生ビジョン」をとりまとめていただきたいと思います。
- ・この「共生ビジョン」は、これからの洲本市と淡路市にとりまして、これまでの広域サービスとはまた異なり、より密接なつながりを持ちながら、展開されることを期待しております。

この懇談会で大いにご議論いただきたいと思います。

### 3. 委員紹介

- ・出席委員を順次ご紹介

### 4. 委員委嘱

- ・委嘱状を机上配付

### 5. 会長、副会長選任

- ・会長は、狩野揮史様に決定
- ・副会長は、多田幸七様に決定

### 6. 会長挨拶

- ・みなさまのご賛同をいただき、当懇談会の会長という重責を担うことになりました狩野です。よろしくお願い申し上げます。
- ・少し昔を振り返ってみますと、洲本市は平成18年2月に合併してから7年が過ぎ、淡路市は平成17年4月に合併してから、8年が過ぎました。10年前には1市10町だった島内の自治体が今は3市になっています。

その意味では、ずいぶんスッキリしたように思いますが、各市とも人口は5万人程度まで減少しており、今後さらに減少すると予想されています。

- ・このように、環境が変わってまいりますと、行政が提供するサービスの内容も自ずと変わってまいります。そういう意味では、今回の「定住自立圏構想」の取り組みが、今後の行政サービスを考える上で、ひとつのモデルになるのかもしれない。
- ・この懇談会では、医療に始まり、教育、産業振興、地域公共交通、ICT（情報通信技術）、地域間交流などの、さまざまなテーマについて、各分野の専門の方々からご意見・ご提案をいただくと聞いております。
- ・限られた時間ではございますが、各委員におかれましては、どうぞ忌憚のないご意見・ご提案をいただき、「新しい行政サービスのあり方」について、協議できればと思います。
- ・甚だ微力ではございますが、全力を尽くす所存ですので、委員各位のご支援・ご協力を切にお願いし、会長就任にあたってのご挨拶とさせていただきます。よろしくお願いたします。

## 7. 報告事項

報告第1-1号 これまでの取り組みについて

- ・資料に基づき、事務局から説明

## 8. 協議事項

議案第1-1号 淡路島定住自立圏共生ビジョン（第1次案）について

- ・資料に基づき、事務局から説明

### <質疑応答>

(委員)

- ・共生ビジョンには、医療分野として、小児救急のことが書かれているが、取り扱う内容は、これで決定しているのか？例えば、成人は、対象にならないのか？

(事務局)

- ・「医療分野」は、定住自立圏構想で定められた項目のひとつであり、現在の共生ビジョンでは小児救急医療についてのみ記しており、成人は含んでいない。

仮に、ここに成人を含む場合の手続きとしては、形成協定の変更が必要であり、洲本市と淡路市の両市議会で改めて議決をいただくことが必要となる。

そのため、現状では、小児救急のみである。

なお、これは、すべての分野に共通して言えることだが、現在の形成協定の内容を変更する場合は、その必要性・重要性・将来性などを十分に考慮した上で、限られた予算内での取り扱いも考慮しつつ、検討する必要である。

(委員)

- ・定住自立圏構想なので、やはり人口を増やさないといけないだろう。人口が増えないと地域の活性化は望めない。共生ビジョンには、現在のことは書かれているが、これから人口を増やす取り組みを記載することが必要ではないか。
- ・若い人の雇用の場を増やす取り組みが大切。それがないと、人口は増えない。地域の活性化もない。そこをもっと記載すべきではないか。

(事務局)

- ・共生ビジョンには、淡路島ブランドの構築やPRについて書いている。例えば、今後、6次産業化を進めることで、付加価値を高め、最終的には所得水準を高め、将来的に、業として成立することをめざしている。
- ・これまでは、主に補助金などで生計を立てていたところから脱却し、できる限り、自立することで、新たな就業の場となるようなお手伝いもしていきたい。

(委員)

- ・物流の話で言えば、モノを動かすことになるので、流通コスト、特に淡路島の場合は、橋代がかかる。大きなマイナス面である。  
モノを動かさずに商売ができる。そのことも含めて、考えるべきである。  
同じモノを運ぶのであれば、情報のように、運搬コストのかからないものが好ましい。

(事務局)

- ・今日は、ICT分野の専門家にもご出席いただいているので、後ほど、専門的見地からご意見を伺いたい。

(委員)

- ・定住自立圏構想は、全体的に人を動かすことが目的だと思う。共生ビジョンの内容は、まだ立ち上げの時期なので、こういう内容になっていると思う。これからの5年間の間で、現在の内容とは異なる別の方向性に代えることができるのならば、検討していただきたい。
- ・地域のPRはいいと思う。近所に夫婦で移住してきた人がいる。そういう人たちや若い人たちを増やしたり、企業ごと受け入れて人口を増やすなど、視野を広げて活動していくことが必要ではないか。

(事務局)

- ・定住自立圏構想の基本ルールとして、3つの分野から最低1つの項目について書くことが必要である。ただし、現状では、共生ビジョンの中にすべての項目を書いているわけではないため、今後、項目を追加していくことは可能。
- ・現在記載していない項目を新たに書くことで、将来的な定住、定着につながることも検討していきたい。

(委員)

- ・外部からここに住もうとする人は、淡路島のことが分かっていない。
- ・地域の機能分担で言えば、スポーツは、主に洲本市でやっていただくとか、整理する必要があるのではないか。
- ・淡路島は素晴らしいところだと思うが、徳島から淡路島で降りたことがない人も多いのではないか。
- ・淡路島のことは、洲本市と淡路市だけでなく、全体で考えないといけない。
- ・人口を増やすためには、働く場所が必要。
- ・淡路島の良さをPRしていくことが必要。コツコツやっていくことが大切。

(委員)

- ・夜間・小児救急は、月曜日から金曜日まで大学やこども病院の医師が来ているのが常態化している。最近では女医も増えている。宿泊することも多いが、ふとんなどが不衛生であるという話を聞くこともある。シャワー設備などについても同様である。改善の余地があると思われる。お金の使い方として、施設面の充実をぜひお願いしたい。

(事務局)

- ・早急に現状を確認し、対応に努めます。

(委員)

- ・救急・休日診療所は、最初の体制と異なり、日曜日は内科と小児科の2診体制でやっているが、施設のレイアウトが二人の医師を想定したものになっていない。そのため、今後、トラブルにならないか心配である。
- ・共生ビジョンの中に、後期基本計画に関する記述があるが、両市は、いつから後期に入っているのか。

(事務局)

- ・洲本市は平成25年度～29年度、淡路市は平成24年度～28年度が、後期基本計画の策定期間になっている。

(委員)

- ・共生ビジョンは、この後期5年間の構想が終わってからの計画ではないのか？

(事務局)

- ・基本的に、両市とも後期基本計画を先に策定しており、共生ビジョンは、その後の策定となっている。両者に直接的なリンクはない。

(委員)

- ・地域公共交通は、近年、人口減少とマイカー利用が増えており、急速に利用者が減少している。共生ビジョンでは、既存バス路線の維持を図りつつ、公共交通空白地帯の対策や島外から客を呼ぶような、観光路線としての活性化を図ることを目的にしているという理解でよろしいか。

(事務局)

- ・地域公共交通は大切な問題である。基本的に、公共交通は行政主体ではなく、交通事業者である淡路交通を主体としつつ、それでも埋まらない公共交通空白地域を行政がコミュニティバスやデマンド交通などで補っていきたいと考えている。

ただし、利用者が減少している地域において、すぐにデマンド交通などで対応するのではなく、まずは、バス会社と協議した上で、理解・協力をいただきながらやっていきたい。

- ・行政の使命として、地域公共交通を守ることは大切だが、そのために、膨大な赤字を注ぎ込むのではなく、是々非々、ケースバイケースで判断していきたい。

(委員)

- ・わが社では、モノは動かさず、情報を動かしている。特に、インターネットをベースにインフラ構築に関する事業を実施している。
- ・わが社の例で言えば、会社の売上げの半分は、島外からの売上げである。
- ・共生ビジョンに記載されているいずれの事業も「情報」が関係している。食のブランド化、地域公共交通など、いずれの分野においてもICTは不可欠なものであるため、いろいろな面で協力できると考えている。

(委員)

- ・空き家バンク、田舎暮らしの推進などにおいて、すでに両市と連携している。
- ・今回の定住自立圏構想の取り組みは、特別交付税をいただくことが目的か。

(事務局)

- ・特別交付税は、中心市で約4千万円弱、連携市で1千万円の見込みである。ただし、共生ビジョンに記載している全ての事業に充てると、全く足りない。そこで、どの事業にいくら充てるのかという割振りが必要になってくる。
- ・定住自立圏構想を進め、共生ビジョンを策定することで、特別交付税の交付に加え、付随してくる制度も多数ある。それらの活用も検討している。
- ・みなさんには、いろいろなご提案をいただき、できれば、現行の事業に対し、いくらかでも予算措置できればと考えている。
- ・今後、どの分野にいくら充てるのかということを検討するためにも、みなさんからご意見をいただきたいと考えている。

(会長)

- ・今、各委員からいただいたご意見を参考に、第2次案を作成していただきたい。
- ・次回、議案として共生ビジョンを採決する。

## 9. その他

- ・懇談会に出席いただいた場合、謝金を支払うので振込先の口座を教えてください。
- ・「淡路島定住自立圏共生ビジョン（第1次案）」に対し、ご意見等のある場合は、7月末を目途に事務局までご提案下さい。

## 10. 次回開催予定

- ・4候補日を提示（8月7日（水）、8日（木）、12日（月）、13日（火））。
- ・開始時間は、いずれも午後2時からの予定。
- ・本日、多くの委員から出欠の報告をいただいたので、それらを参考に決定し、速やかに通知。

## 11. 副会長挨拶

- ・長時間のご審議、お疲れさまでした。
- ・今回は、今年度の第1回懇談会でしたが、いろいろと興味深い話を伺うことができました。それぞれ専門分野が異なっているので、普段はなかなかこのようにお会いする機会がありませんが、今回のように複数の分野に関係するような場合は、それぞれの立場で意見を申し上げていただくとともに、大所高所からの意見具申も大切だと感じました。
- ・洲本市と淡路市は、隣り合う自治体です。取り組んでいる行政サービスの内容も小異はあれ、多くは同じようなものだと思います。ただ、昔と異なり、国、県、市も十分な財源を確保することが困難になっており、行政サービスをフルセットで提供できる時代ではなくなってきつつあるように思います。
- ・そのため、これからは、お互いの良さを生かしつつ、十分ではないところをお互いにカバーしあうことが必要かもしれません。
- ・この「定住自立圏構想」は、それを実現するための「新しい形」だと思います。その意味では、町内会も、自分たちにできることがあれば、可能な範囲で協力してまいりたいと思いますので、行政をはじめ、関係各位は、この制度を有効に活用していただきたいと思います。次回の協議も楽しみにしています。
- ・以上、簡単ですが、閉会にあたっての挨拶とさせていただきます。  
ありがとうございました。

## 12. 閉会